

特養6割が人材不足

WAM調査 うち1割は利用制限

福祉医療機構(WAM)が7月27日に発表した調査で、2018年1月時点で全国の特別養護老人ホームの6割が人材不足に陥り、うち1割が利用者の受け入れを制限していたことが分かった。

調査は18年2～3月、3304施設を対象に実施(有効回答率19%)。施設形態は従来型が43%、個室ユニット型が46%、一部個室ユニット型が12%。特養ホームで人材不足に陥っているのは64%。不足している職種は、介護職が99%、看護職が38%、理学療法士・作業療法士が7%。人材不足だった施設の12%が利用者の受け入れを制限していた。

18年春の新卒採用については、採用なし(57%)が最多で、1～3人(35%)、4～6人(6%)と続いた。1施設当たりの平均採用人数はここ数年減少傾向にあり、18年度は1・12人に落ち込んでいた。効果があつた採用経路は、学校の就職課など訪問(63%)、学校での説明会訪問(45%)、養成校の教員推薦(43%)、資格実習受け入れ(40%)の順だった。

一方、ここ数年の採用活動で対応した学生の傾向については、40%が「変化した」と回答。具体的には「給与だけでなく、残業や休みの悪そうな施設は明確に避ける」「各種手当を応募している施設だ」と指摘している。

WAMは「新卒採用活動で一定の成果をあげている施設に共通するのは積極的に学生にアプローチし、就職後も働き続けることなどを応援している施設だ」と指摘している。

(鮫島隆紘)

課など訪問(63%)、

学校での説明会訪問

(45%)、養成校の教

員推薦(43%)、資格

実習受け入れ(40%)

の順だった。

一方、ここ数年の採

用活動で対応した学生

の傾向については、40

%が「変化した」と回

答。具体的には「給与

だけでなく、残業や休

みの悪そうな施設は明確

に避ける」「各種手当

を応募している施設

だ」と指摘している。

WAMは「新卒採用

活動で一定の成果をあ

げている施設に共通す

るのは積極的に学生に

アプローチし、就職後

も働き続けることなど